

第8回国際地籍シンポジウム in 札幌

速報

開催報告

第8回国際地籍シンポジウムが、冬の到来を思わせるような天候の中、今年10月19日(金)に札幌市中央区の札幌グランドホテルにおいて、国際地籍学会の主催、地籍問題研究会の共催で、日本土地家屋調査士会連合会が実施機関となり、メインテーマを「災害からの復興」と題して、日本、韓国、台湾の3つの国と地域から多くの研究者が参加して開催されました。

シンポジウムに先がけ、歓迎のパーティーが韓国、台湾の出席者と全国の土地家屋調査士会会長、連合会役員が参加して、前日18日の午後6時30分から同ホテル2階のグランドホールで開かれ、翌日の発表に向けて懇親を深める場となりました。

シンポジウムは、19日の午前9時30分から開会式と基調講演があり、つぎに、会場を二つに分けて午後4時まで研究発表会があり、午後4時からは参加者全員がひとつの会場に集合して、発表内容の総括と閉会式を行いました。

その後、国際地籍学会総会が開催され、午後6時30分の総会の終了時間まで熱心な話し合いがなされました。

基調講演は、元吉備国際大学教授・元JICA専門家の坂本勇様により「津波災害後の、インドネシア(アチェ)と日本(東北)における土地権利の擁護と回復」の標題でなされました。

坂本勇様は、東京都青梅市に東京修復保存センターを設立し、文書の修復や保存の専門家として活躍されており、平成16年12月にインドネシア、アチ



ェ州の津波で被災した土地台帳や原図等の救出と復旧の活動に貢献され、昨年の東日本大震災におきましても、仙台法務局気仙沼支局や盛岡地方法務局大船渡支局の津波被災の登記簿等の救出と復興に従事なさいました。

現在はインドネシアを拠点として、古代樹皮紙の研究、伝統樹皮布・紙の産業の保全のための活動をされています。

これらの経験と活動の視点から、現在の日本では電子データや紙により保存されていますが、地震や津波の被災に対する備えについてどうあるべきかという、提案を含めた講演がありました。

論文発表は、「災害復興に向けた地籍、政策、教育の推進」、「災害における地理空間情報の活用」、「災害に対する地籍測量と地図作成技術の革新」という3つのテーマで行われ、日本、韓国、台湾から6人ずつ18人の発表がありました。

発表内容の詳細は次回とさせていただきますが、各人持ち時間25分という短い中で行われました。発表後に質問の時間も設けられておりましたが、熱心な質問によって次の予定に食い込むほどの発表もみられました。

発表者は、次ページのとおりであります。



連合会広報部 岩淵正知

国際地籍シンポジウム発表者

論文発表1 会場1 (グランドホール)

- <日本>三嶋 裕之 (Mishima Hiroyuki) 兵庫県土地家屋調査士会 会員
<韓国>金 榮學 (Kim, Young-Hag) 清州大學校 教授
<台湾>董 荔偉 (Tung, Li-Wei) 内政部國土測繪中心 技士

論文発表1 会場2 (金枝の間)

- <韓国>姜 相求 (Kang, Sang-Gu) 大韓地籍公社 責任研究員
<台湾>李 訢卉 (Li, Janet) 台灣世曦工程顧問有限公司 工程師
<日本>宮下 和美 (Miyashita Kazumi) 長野県土地家屋調査士会 会員

論文発表2 会場1 (グランドホール)

- <韓国>李 廷彬 (Lee, Joung-Bin) 大韓地籍公社 次長
<台湾>劉 家鈞 (Liu, Jia-Jun) 臺北市政府地政局土地開發總隊 技正
<日本>藤井 十章 (Fujii Kazuaki) 兵庫県土地家屋調査士会 会員

論文発表2 会場2 (金枝の間)

- <台湾>江 渾欽 (Chiang, Hun-Chin) 國立台北大學不動產與城鄉環境學系 副教授
<日本>菅原 唯夫 (Sugawara Tadao) 岩手県土地家屋調査士会 会長
<韓国>李 範寬 (Lee, Beom-Gwan) 慶一大學校 教授

論文発表3 会場1 (グランドホール)

- <台湾>周 天穎 (Chou, Tine-Yin) 逢甲大學地理資訊系統研究中心 主任
<日本>山谷 正幸 (Yamaya Masayuki) 旭川土地家屋調査士会 会長
<韓国>姜 相求 (Kang, Sang-Gu) 大韓地籍公社 責任研究員

論文発表3 会場2 (金枝の間)

- <日本>今瀬 勉 (Imase Tsutomu) 日本土地家屋調査士会連合会 研究所研究員
<韓国>林 成河 (Lim, Seong-Ha) 大韓地籍公社 代理
<台湾>曾 耀賢 (Tseng, Yao-Hsien) 中華民國地籍測量學會 副秘書長、
内政部國土測繪中心 簡任技正